

【取組事例】

米子市立福米西小学校

< 1 学年 3 学級規模
学級担任と級外教員による教科担任制 >

1 指定校の概要

(H28.4.1 現在)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	(H29.5.1 現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 29 名
学級数	3	4	3	3	3	3	19	
児童数	89	103	104	94	97	92	579	

2 教科担任制の実施概要

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	1	1	1
6年1組	A	B	C	A	D	E	A	B	A	A	A	A	A・C2
6年2組	B	B	C	B	D	E	A	B	A・B	B	B	B	B・C2
6年3組	C	B	C	C	D	E	A	B	A・C	C	C	C	C・C2

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	1
5年1組	A	D	A	A	E	F	E	C	A	A	A	A	A・C2
5年2組	B	D	A	B	E	F	B	B	B	B	B	B	B・C2
5年3組	C2	C2	A	B	E	F	B	C2	C2	C2	C2	C2	C2

※A=5, 6年1組担任 B=5, 6年2組担任 C=6年3組担任 C2=5年3組担任
D~=担任外

3 研究の内容や方法等

学級経営や授業の内容について担任によりかなりの差が出ているという現状から、教科担任制を導入し、一人の担任だけで見るとはならず、多くの教員が関わりながら子ども達を育てていきたいと考える。また、教科担任制にすることで、たくさんの教科を教えるときとは異なり、しっかりと教材研究をすることができ、子どもたちの学び合いができるような授業改革も行えると考えた。

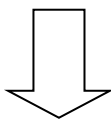
- ・教科担任制をどのように進めるか、効果的な時間割の組み方を工夫する。
- ・5年担任が5・6年6クラスの外国語活動を担当し、各担任とともに授業を実施することは可能かを検証する。

4 研究体制等

- ・高学年及び教務主任、授業に出ている級外で常に連携を図る。
- ・各学期の教育反省やアンケート（児童及び教員）等をもとに、高学年における教科担任制のよさ及び難しさを明らかにし、よりよい方法・改善策を練っていく。

5 2年間の取組概要と成果 <1学年3学級規模。学級担任と級外教員による教科担任制>

1年次の取組概要と成果	1年次の課題
<p><5年（書写、社会、家庭）、6年（書写、社会、図工）の担任による授業交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究に要する時間の減少 ・複数回授業を行うことで授業の質の向上 ・同じ教師による学習評価が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・出張や休暇時の対応が困難（授業の扱い方、変更の仕方） ・教科担任制担当以外の教員や保護者に対する教科担任制の一層の理解とそれを促す機会の必要性



2年次の成果
<p><5年（書写、社会、図工、家庭、外国語活動）、6年（社会、算数、図工、外国語活動）の担任による授業交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制に関わる教科は、予め出張の多い曜日や時間帯を避けて配置する時間割とすることで、担任・級外に出張・休暇等があっても大きく左右されずに、予定通り学習を実施することができた。 ・複数の教科を担当する場合、その教科の組み合わせを見直すことで、学期末・年度末における担当の負担を軽減することができた。 ・フリータイム参観日等を活用した教科担任制の学習の公開は、保護者・地域の方にも好評であった。 ・担当教科を持つことで、教材研究に要する教科数と時間の低減が図られた。 ・複数回同様の授業を行うことにより、教師が積極的に授業の改善を図ろうと努めた。 ・学年の全学級に等質の授業を行うことが可能となった。 ・同じ評価規準で学年全体を評価することが可能となった。特に実技教科では有用であった。 ・例年以上に早く、学年全体の児童に対する児童理解が進んだ。 ・児童の言動の裏側にある事柄について、教職員で語り合う機会が増えた。 ・級外を含めた学年団全体で児童を見取っていく意識が高まった。 ・児童と担任以外の教師との距離感が縮まった。 <p>【児童アンケート結果：6年児童H28 74% → H29 88%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が考える以上に、児童は違和感なく教科担任制を受け入れていた。 <p>【児童アンケート結果：6年児童H28 90% → H29 98%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この取り組みに対する高学年の保護者の期待の大きさが感じられた。 ・中学校へのスムーズな移行が可能になると感じる。

効果的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制に関わる教科は、予め出張の多い曜日や時間帯（火・木の午後、生徒指導担当は金の午後等）を避けて配置する時間割とした。 ・担任2人+級外1人でその時間を担当することで、急な休暇等があっても、残りの担任1人が授業を行うことができた。（昨年度のように、その時間の教科担任制を解いて学級に返すということがほぼなくなった。） ・フリータイム参観日・学校公開日等を活用し、担任以外が授業を公開することで、保護者や地域の方に「高学年における教科担任制」について知っていただく機会をもった。